

基本目標		意見1	意見2	意見3	意見4
施策					
≪基本目標①≫しごとづくり  (1) 創業・起業・販路開拓支援、新たなビジネスモデル構築などへの支援	コロナ禍を経て販路は大きく様変わりした印象がある。そのため「販路開拓支援」に関するニーズは高まっていると感じているので積極的に取組む必要があると考える。  各KPIのうちコロナ禍の影響により大きく変化した指標が多い。コロナ禍は理由にはならないため、今後は環境変化を的確に捉えて目標値を達成できるよう適切に施策を組み立てる必要がある。大きな見直しもありえるのではないかと。	周囲環境のよくない中において努力の跡は見られており、十分に評価できる。後でもコメントするが、新規就農者数はよく頑張っているが、ここをもっと押し上げて欲しい。	津田工業(株)本社の豊川移転、イオンモール豊川の進出など、雇用に大きな影響のある施策を推進していることは評価できるが、達成目標において農業に偏重し過ぎではないかと思う。	農産物や新規就農者数の増加について 観光客が集まる道の駅等の開設など、多くの観光客が集まる施設を作ることなどで、より多くの地産農産物が売れ、更により多くの農産物を生み出し、新規就農者の増加の一助となると考える。	
	創業塾など、起業するあるいは企業を計画している人に対する支援はできていると思う。しかしながら、創業・起業はできても継続していくことは至難であり、失敗しても再びチャレンジできる社会環境の整備が肝要である。販路拡大においても、展示会への出展は大きな効果が認められるが、その出展支援予算が削減されるようでは市としてのスタンスに疑問符が付くのではないかと。	創業者育成について これからの時代に必要となるデジタル分野や地域・社会課題解決を目的とした起業者の支援が必要であると考え。	・いずれの事業も目標を達成しており、また、実績値も昨年度を上まわっており評価できる。また、KPIにも寄与していると評価できる。 ・連番2「とよかわ創業・起業支援ネットワークを活用した創業・起業の支援」は件数が多いが、実際に創業に繋がったケースはどの程度あるのだろうか。 ・連番4「未来技術の社会実装を通じた地域産業の強化」は、実証実験から実現へ将来が期待される。	大きな流れや現状の周囲環境下では致し方ない。20～30年程度のロングスパンで考えていくことも必要であり、短期的な成果を追い求めてはいけないと思う。	
	連番6「地域技能者活用事業」においては、豊川工科高等学校のみになっているが、他高校でも高卒で働く学生もいるため、工業系だけでなく、商業高校、普通科など市内高校へ技能資格取得支援だけでなく、その他資格取得、ビジネスマナー等仕事に取組む姿勢等に関する講師派遣を他高校へも拡充できないか検討してほしい。市内高校へアンケート調査を実施し、講師派遣が必要か、どんな内容が希望されるかなどヒヤリングするのはどうか。予算は限られると思うが利用者が少ないため事業内容を再検討したらどうか。 連番8「首都圏人材確保支援事業」については、首都圏だけでなく、都市圏、全国へ広げれば利用が増えるのではないかと。	中小企業の従業員等に関する支援について 従業員に対しては国の補助が充実しているが、経営者に対する支援は皆無といえる。中小企業は、経営者の器以上には成長しないとされている。この大きな時代変化のタイミングに、経営者自身が時代の変化(デジタル化や環境への配慮など)に対応できるための支援が必要と考える。	今こそ全国から人材を呼び込むいい機会ではないか?思い切った補助政策をとって、ワーケーションでも何でもよいが、大きなインセンティブを与えることで、是非来てみたいと思わせる豊川にしてほしい。(特にドローン関連で。 )	連番7「若年者の就労支援」について、担当課が商工観光課だけでいいのか。就労促進にむけて、仕事と子育ての両立にむけた雇用環境づくりは、男女に関係なく必要なものである。保育の量の充実のみが働きやすさではない。子育て期の保護者の働きやすさを雇用環境の改善点としたい。	
(2) 就労促進、人材育成支援	連番11「耕作放棄地解消への支援」について、耕作放棄地は農業の仕事づくりだけでなくターゲットを耕作者から市民に広げることで市民農園などとして利用し、農業の魅力を発信することができる。コミュニティの場、趣味の場として、健康の場としてまちづくりの一つになる。	中小企業の従業員等に関する支援について 従業員に対しては国の補助が充実しているが、経営者に対する支援は皆無といえる。中小企業は、経営者の器以上には成長しないとされている。この大きな時代変化のタイミングに、経営者自身が時代の変化(デジタル化や環境への配慮など)に対応できるための支援が必要と考える。	今こそ全国から人材を呼び込むいい機会ではないか?思い切った補助政策をとって、ワーケーションでも何でもよいが、大きなインセンティブを与えることで、是非来てみたいと思わせる豊川にしてほしい。(特にドローン関連で。 )	連番7「若年者の就労支援」について、担当課が商工観光課だけでいいのか。就労促進にむけて、仕事と子育ての両立にむけた雇用環境づくりは、男女に関係なく必要なものである。保育の量の充実のみが働きやすさではない。子育て期の保護者の働きやすさを雇用環境の改善点としたい。	
(3) 農業・商業の活性化と経営・生産性向上の支援	連番11「耕作放棄地解消への支援」について、耕作放棄地は農業の仕事づくりだけでなくターゲットを耕作者から市民に広げることで市民農園などとして利用し、農業の魅力を発信することができる。コミュニティの場、趣味の場として、健康の場としてまちづくりの一つになる。	よく頑張っていたらいいと思うが、本市の特性や今後の世界情勢の変化とその中での日本の置かれた環境などを考えるととっと農業については力を入れてよいし、入れるべき。	連番12「豊川産農作物のブランド化・販路開拓への支援」について、目標値が主要農作物の中から1件は寂しい限り。主要農作物それぞれに1商品企画は必要で、委員会の議論ではなく、民間委託も検討し早期に売れる商品開発事業をお願いしたい。	・農業に対する逆風の中で個々の事業の達成度は低い。しかし、KPI指標をみると、新規就農者数が増加し、また農業産出額や主要農産物の販売額では、コロナ禍が継続中にもかかわらず下げ止まりを見せていることから、一定の評価ができる。	
≪基本目標②≫ひとの流れづくり	・コロナ禍で交流人口は引き続き目標比で厳しい数字が出ているが下げ止まり感が見られる。 ・主たるKPIである人口増減も目標は下回るものの純増であることは評価できる(自然増減も含まれているのに「転出・転入者数」というのは紛らわしいのではないかと)	人口減少社会において、都市間の競争はいかに流入人口を増やし、少しでも出生率を上げるようにするかであると思う。そのためには豊川の住みやすさ、暮らしやすさをもっとPRするシティプロモーションに力を入れる必要があると思う。	秘書課広報のInstagram等の配信でSNS登録者数が増えている。配信の内容が工夫されている結果であり高評価。コロナ禍が終われば訪問数値も上がることが予想されるので継続して頑張してほしい。	コロナ禍により全てのKPIが大幅に低下し、これまでの取組の効果が発揮されにくい環境となってしまった。この状況を踏まえて、各施策を組み立てなおしKPI上昇を目指す必要がある。  この環境下でも伸びている施策はある(SNS登録者)。その施策をベースに他の施策にも効果があるような取組を組み立てなおしてほしい。	
	(1) 企業立地・産業集積の推進	連番16「企業立地支援策の啓発」について、唯一目標に届かず活動指標の達成率も悪い。コロナ禍が理由かもしれないが、今はオンラインなど活用すれば訪問しなくても啓発活動はできる。オンラインなら市外や県外へ向かう必要もなく効率的で本来は件数が増えてもよい。	長期に渡る安定的雇用と財源確保にはやはり企業立地しかない。地道に継続して取組んでいってほしい。	内陸の工業団地には企業も順調に進出しているが、臨海部の工業団地は、東日本大震災や高潮被害の影響もあり、今後も厳しい状況は続くと考えられるので、名豊バイパスや東三河環状線など道路網の整備・進捗に併せて、内陸の工業団地の整備についても進めていくべきである。	連番16「企業立地支援策の啓発」について、コロナ禍で企業訪問も難しい状況下である。豊川市のPR動画(ショートムービー)を遊び心溢れる印象に残る、おしゃれな企画で直接営業できない今こそ、動画作成の予算化を実施できたらよい。目標値が訪問回数のためオンライン打ち合わせも回数に入れたらどうか。
	(2) 地域資源の活用推進	豊川ブランドの立ち上げなど、地域資源の活用については努力しているものの、豊川市在住者でさえ知らないようでは認知度も上がってこない。SNSやインフルエンサーの活用など思い切った施策を展開しないと難しいのではないかと。	コロナ禍によりどの事業も大変厳しい状況である。新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続くと思うし、今後いつまたこのような感染症に見舞われるかわからない。市内の事業者をみると一度に人を集める動きから集客を分散する傾向が見受けられる。このような流れも見ながら何かしら新たな施策が必要だと考える。	・主な事業のほとんどでコロナ禍の影響が出ていると考えられ、実施自体が困難であったことが窺われる。その中で連番21「赤塚山公園の賑わい創出に向けた再整備」や連番24「スポーツ合宿への支援」は目標比でも、前年度比でも健闘していると積極的に評価できる。 ・引き続き地域資源の活用を官民挙げて活用してもらいたい。	赤塚山公園の賑わいについて 東名高速道路に面しているため、とてもポテンシャルのある公園だと思う。スマートIC導入や公園と隣接したハイウェイオアシス豊川の誘致などの可能性を秘めていると考えている。公園自体も使用していないスペースが多く、例えば、アウトドアメカのスノーピーク社と組んで環境を活かしたアウトドア体験ができるようにするなど、単に老朽化したものを新しくするのではなく、将来的にどう観光客を呼び込むような公園を目指して計画をしていくべきと考える。
(3) シティセールス・観光の振興を核とした移住・交流等人口の拡大の推進	連番32「観光おもてなし力促進事業」の中の「観光まちづくりボランティア講座」について、観光資源を取り入れた観光ボランティアガイド講座に変更できないか。大きなイベントが実施できない今、少人数を対応いただけるガイドさんの取組が必要であるが、観光資源の講座がないため、人材育成ができていない。検討してほしい。	連番32「観光おもてなし力促進事業」について、まちづくりを担う人材の発掘と育成は充実してきており、観光以外の分野でもボランティアの育成に繋がっている。	行政主導の観光振興策には限界があり、観光やそれをとりまく商業で生活をしている人たちの熱意がなければ観光も活性化していかないと思う。 令和5年春のイオンモール豊川の開業は、豊川への来訪者が増えるよい機会であるので、豊川市内の他の地域へどのように誘客していくかが、今後のひとの流れづくりに重要となる。	連番29「インバウンド対策事業」について、現在どのような取組をしているか。アフターコロナがどのような状況になるかを見据えて対策や方向性を考える時期だと考えられるが、現状どのような進捗か知りたい。  ふるさと納税の取組は私の周りの事業者からも大変評判がよく関心が高い。より効果的に行われるよう対外的なPR強化や制度設計の精度を高めてほしい。	

基本目標		意見5	意見6	意見7
施策				
≪基本目標①≫しごとづくり		落ち込んでいるところは、新型コロナウイルス感染症が落ちれば元に戻ると見込むが、「創業者」「新規就農者」については、この機会に更なる支援事業を盛り込みもっと伸ばすチャンスではないか。	・コロナの影響で、目標比では厳しい数字が続いているもの全体として下げ止まり感がある。コロナ禍を抜けた後に施策の効果が発揮されることを期待する。 ・「創業者数」や「新規就農者数」は着実に増えており、事業の効果が持続的に効果を上げていくと評価しうるのはないだろうか。一方で、有効求人倍率が低い中で、就業を希望しながらも不本意な創業になっていないか。分析を進めて欲しい。	
	(1) 創業・起業・販路開拓支援、新たなビジネスモデル構築などへの支援	KPIにある「製造業の事業所数(事業所)」が、どの施策や事業とリンクしているのかわからない。KPIをみると減少幅が大きく解消するための施策が必要だと考える。 創業支援相談件数が大幅に増えそのまま創業者数の増加に繋がっている。関係職員による個別のPR活動の効果が大きいと感じる。名古屋はもちろん東三河には創業を意識した方の集まる場が多いので担当職員が積極的に関わるとよい。	連番2「とよかわ創業・企業支援ネットワークを活用した創業・起業の支援」の相談件数が目標値より203名増えている。しっかりPRされた実績で大変発揮できている。R2年度も109名で増えていることから2年続けて同じ目標ではなく、目標値を増やすべきではないか。 連番3「遊休不動産などの活用による創業支援」について、空き店舗紹介、リノベに関する情報提供は、いい事業でナイスな企画だが、目標値が事業の回数では、評価になるのか。事業実施後の店舗活用実績または、参加者数などが目標値になるのではないか。	
	(2) 就労促進、人材育成支援	・コロナ禍で人を集めることが難しい中、個々の事業は参加者数を確保しており、一定の評価ができる。 ・いずれの事業も事業費が少ない中で、労働者への投資を行うもので、長期的な効果を期待する。	超高齢化社会を迎え、今後の労働力を考えると、健康で、やりがいと生きがいを持って働くことのできる高齢者をいかに活用していくかが重要である。また、今後さらに平均寿命が延びることを考えると、リカレント教育の必要性についても検討していく必要がある。	KPIにある「製造業の事業所数(事業所)」が、どの施策や事業とリンクしているのかわからない。KPIをみると減少幅が大きく解消するための施策が必要だと考える。 連番8「首都圏人材確保支援事業」が設定以来ゼロなのは問題。事業は足並みを揃えるが取組み方は各市自由。どのような取組み方をしたのか知りたい。市独自の移住用サイトはともよいので有効に活用できるようトライ&エラーしながら活用に向けた取組を強化してほしい。
(3) 農業・商業の活性化と経営・生産性向上の支援	農業の生産性の向上については、いかに資金を投入し、省力化・効率化を図るかが重要となるが、従事者が高齢になると必要な投資も難しくなる。いかに若い就農者を増やすか、販路を確保し収入を安定させるかがカギとなるので、JAや関係機関とも協力し、必要な施策を進めるべきである。	就農塾を卒業すると就農のための要件等が整う非常に重要な位置づけ。卒業後、継続的に農業を運営できそうな方のみに参加していただき、参加者に合わせた指導を行っているため、目標値の120名は多い。もう少し減らしてもよいと考える。 連番12「豊川産農産物のブランド化・販路開拓への支援」は事業内容と活動指標がアンマッチ。加工品をつくる事業ではなく販路を開拓する事業。販路数を活動指標とすべきである。 連番14「既存事業者への多様な産業活性化に向けた支援」は具体的なイメージがわからないが、最近「観光農園」に近い「体験農園」が管内でも増えている。市内の企業でも新規事業として現在研究をされていると聞いているが、市として「観光農業」や「体験農業」についてどのような方向性を持っているか知りたい。まちひとしごとの創生には非常に効果があると考え。	豊川産農産物のブランド化についてなんでも「とよかわ」をつけるのはいかがなものかと思っている。ブランド化とはそういうことではないと思う。ブランド化するとはどういうことなのかを学んだり、プロの力を借りて再構築してはどうかと考える。	
≪基本目標②≫ひとの流れづくり		年間観光入込客数について豊川稲荷の3商店街にシャッター店舗がある。以前商売をされていたが、現在しておらず、そのままお住まいになっているケースであると推察するが、そういった建物を有効活用できると観光地活性に繋がる。全国各地で、そういった旧店舗を地域の若者に貸して、商店街に新たな成長の芽が生まれるというケースが増えてきている。行政の力を借りてそういったケースが増えるとうよいと考える。	SNS登録者数が増えたのは一歩前進。ここから、どんな発信を継続的にしていくか？オルモウデなど、民間も頑張っているのでぜひそれに便乗、大きく発信して欲しい。	
	(1) 企業立地・産業集積の推進	・連番15「新規工業用地の開発」～連番19「トップセールスによる企業誘致」の個々の事業の件数がどれも少なくKPI数値にどの程度寄与しているか資料からの評価は難しいが、目標を達成しており、積極的な評価ができる。		
	(2) 地域資源の活用推進	赤塚山公園再整備後の変化に期待する。	連番20「とよかわブランドの磨き上げ」について、プロモーションの回数が目標値ではなく、アンケート調査の回答数や、SNS登録者数など実績がわかる数値に変更したらどうか。 連番23「トップアスリートふれあい交流事業」の参加がコロナ禍で募集が難しいと考える。観光協会の着地型観光プログラムと共同企画で実施したらどうか。	事業としては効果が出ていないが、資源の掘り起こし、工夫があり、継続に向けて期待できる。 「施策の効果」を発揮できているかの評価だけでは測れない。
(3) シティセールス・観光の振興を核とした移住・交流等人口の拡大の推進	・コロナ禍の影響で、対面的な交流人口のKPIは厳しい数値である。一方、SNSやふるさと納税などの関係人口については成果をのばしており、コロナの影響が収まった後に来市してもらい、交流人口つながることを期待したい。 ・連番32「観光おもてなし力促進事業」の実績時が積み上がっていることが、基本目標④(3)「地域マネジメントと民間活力の導入」にも寄与するもので期待したい。	ふるさと納税でより多くの寄付を集めるためには、魅力的な返礼品が必要。豊川の資源を生かしたもので、ラーメン(冷凍)が有効と考える。豊川市内には、ミシュラン一つ星後継店やラーメングランプリ優勝店等特色あるラーメン屋がいくつか存在する。	地域団体、企業も頑張っている今後の相乗効果に期待する。	

基本目標		意見1	意見2	意見3	意見4
施策					
<p>≪基本目標③≫結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる地域社会づくり</p>		<p>目標に届かないKPIについてもほぼ全ての項目が上昇しているのは好感が持てる。特に「合計特殊出生率」は重要な指標なので回復傾向なのはよい取組ができている成果だと感じる。</p>	<p>KPI「3歳未満児の受け入れ」について、前回数値より増加していることは、豊川市で産み育てる環境整備が充実できていて、子育てを前向きに捉える親の割合も伸びていることはとてもよい。努力の積み重ねが数字でよくわかる。</p>	<p>・主たるKPIである合計特殊出生率は、愛知県平均を上回っており、また前年度から大きく回復している点を考慮すれば積極的に評価できる。 ・高齢化により高齢女性の自然減が増加すると思われる。このままKPI指標として女性の転出・転入数は施策評価に適しているのか？女性の生産人口の増減のような補助指標を導入してもよいのではないかと。</p>	<p>若い人からの、勤めながらの子育ての難しさ、働いている周りからの理解の乏しさを憂う声も多い。旧態依然とした企業や社会の意識を変えたとともに、人口減少は地域が無くなっていくことだという危機意識を持たなければ、今後の地域づくりはできないと思う。</p>
<p>(1) 安心して出産し、子どもが健やかに育つための支援</p>		<p>・各事業は着実に実施しており、出生率の向上や市民満足度に繋がっていると積極的に評価できる。 ・世代別の市民満足度の結果を見ると、出産・子育て世代である20代・30代が低く、子育て経験者が多いと想定される40代以上で満足度が高くなっており、子育て未経験者や子育て中世代で市の事業や政策が認知されていないのではないだろうか。</p>	<p>福祉部や子ども健康部を中心に頑張っていると思う。これからの担う子供たちのためには、できる限りの支援をしていくべきであるし、この支援が将来の豊川市を形作っていくと思う。</p>	<p>連番45「学校教育環境の整備」について、トイレの改修事業(地域開放・避難所利用)はジェンダーフリーの啓発にもなると思われる。</p>	<p>どの事業についても担当者の対応もよく好評である。 連番37「結婚支援事業」は参加者が減少傾向。もちろんコロナ禍による影響はあるが、若い世代の思考の変化も起因しているのではないかと。オンラインの活用などターゲット年代層の考え方に合わせた取組が必要だと考える。 ICT活用について専門家の登用を期待する。</p>
<p>(2) 保育サービス・子育て支援サービスの充実と子育てにやさしいまちづくり</p>		<p>入園を希望する人の多い地域と保育園の立地にはギャップがあるので、保育士の異動を増やすなどの調整を行い、入園希望の多い保育園の充実を図るなど柔軟な対応をすべきである。</p>	<p>連番56「病児・病後保育事業」の実績がコロナ禍にありながら、9人から130人に増えているのは必要な事業でしっかり周知ができているからであり高評価。事業効果の目標値が高すぎたため自己評価が低くなっているため、R4年は目標値を下げ、しっかり評価してもらえる数字に修正するべき。</p>	<p>給食費減免事業は大変好評である。一方で給食に地元農産物の活用要望が高い。 児童クラブは児童数に合わせて対応ができおり、待機児童も少ないと聞いている。反面運営面の課題は大きいと聞いている。業務の関係で民間の児童クラブに関するインタビューを行ったが、特定の職員や役員になる母親への負担増加が気になった。</p>	<p>・KPIは目標達成に向けて着実に推移しており、評価できる。属する事業の多くは施策のKPI2項目に直接寄与しないが、基本目標③全体に貢献していると考えられる。 ・児童クラブ利用数は頭打ち感があるが、潜在的な利用者は目標値の1800人と想定しているのか。</p>
<p>(3) 共生のまちづくりの推進</p>		<p>今現在、潜在的な将来自立不可能な人たちは増加していると、周囲を見て感じる。予防医療(情報の発信が大きい)に関してより積極的に、予算を配分して取組んで欲しい。皆病院に行きすぎである。病気にしないことをなんとか評価できる仕組みが必要。</p>	<p>・KPIは2項目で目標を既に上まわり、女性の人口も純増を維持しており評価できる。 ・申請主義によって支援の入口にさえ立てない社会的弱者の受け皿になって欲しいと考える。</p>	<p>外国人の転入・転出については、景気の動向に左右されるので指標としては適切かどうか。 外国人児童の日本語学習機会の提供について、中学を卒業してからの対応が全くできていないので、必要があれば年齢を問わず対応できる体制づくりを急ぐべきである。</p>	<p>世間であまり報道されなくなるにつれて意識が低下していると感じる「ワークライフバランス」。講座への参加者も増えていないのが現状。そのような状況下において祭中止の中、どのような形でアンケートや啓発、推進を行ったか。少し意識的に取組まないと評価指標は上がらないと感じる。</p>
<p>≪基本目標④≫安全で快適に暮らせるまちづくり</p>		<p>・KPIは鉄道駅の1項目を除き、目標を達成しており、全体として施策の効果が認められる。</p>	<p>KPI「新たに取り組む事業連携数」のみ下がっただけで、他のKPI指数が上がり高評価。「新たに取り組む事業連携数」について事業例を掲載するとわかりやすい。</p>	<p>大きな災害がないので満足度も高いと考えられるが、平常時にこそ非常時を想定し、安全で快適に暮らせるまちづくりを進めてほしいと思う。</p>	<p>「住みよさ」市民満足度の90%は非常に高いと感じる。市民の声をよく聞き施策に反映させている成果だと感じる。</p>
<p>(1) 拠点間の連携・拠点周辺への都市機能集約と居住の促進</p>		<p>豊川市の成り立ちが、合併を繰り返してきたため、拠点となる地域が分散し、中心のない市のようにになっているが、分散する拠点ごとまちづくりを進めれば、過度な集中のないまちづくりができると思う。</p>	<p>・人口の集約がKPIにも反映しており、積極的に評価できる。 ・他の市町村との関係も気になるが、連番71「拠点地区定住促進事業」のように市外からの拠点地区への移住が伸びているのは、選ばれる豊川市となっているのではないかと。 ・誘導区域内住民の利便性や満足度は高くなるのが期待できるが、人口の6割が住み今更ますます厳しくなる誘導区域外地区をどのように手当てしていくのか。</p>	<p>どの事業も前年より改善が見られ、ほぼ全ての目標値を超えている。その結果がKPIの達成に繋がっていると感じる。鉄道駅の乗車人員はコロナ禍による影響もあるしそもそも自動車移動が主力の町なので問題はないと感じている。愛知御津駅の事業が進めば改善も見込まれる。反面コミュニティバスの利用はもう少し増えるとよい。</p>	
<p>(2) 地域の安全・安心・高付加価値化の推進</p>		<p>防犯カメラ設置について各企業や店舗に協力してもらうことで、より多くの防犯カメラが豊川市に設置され犯罪抑止につながる。設置会社を表彰したり、ホームページに掲載するなどお金をかけなくてもできることがあるのではと考える。</p>	<p>防災は大きな災害がないとその役割がクローズアップされないが、平常時において備えることが防災の本質であるので、不断の対応を求めたい。</p>	<p>・「安全・安心」市民満足度は、該当11項目のうち消防・救急、衛生・環境行政は満足度が高い。しかし、「1 交通安全対策」「2 歩行者にとっての道路の安全性」「3 防犯対策」「4 地震などに対する防災対策」は満足度が低く、項目ごとに評価の分布は依然割れている。平均値の達成の次のステップとして、優先度の高い項目の底上げが必要ではないかと。ただし、この4項目も2019年度調査比で満足度が微増しているため、施策の効果が発揮されていると評価できる。</p>	<p>連番84「通学路の一斉点検と安全対策事業」の目標値が会議の実回数では評価できないため、児童アンケート調査を実施し理解指数の数値化、または通学路における事故数の皆無を目指して数値化評価など変更を検討してはどうか。 連番89「市民病院における感染症対応の強化」の実績がわかりにくいので、セミナー参加者数にしてはどうか。</p>
<p>(3) 地域マネジメントと民間活力の導入</p>		<p>連番95「ボランティア・NPOマンパワーの養成による地域力の向上」の目標値が講座回数になっているが評価しにくい。確かに講座の準備手配においても事業になるが、参加者数など実績を数値化したほうが評価に値するので検討してほしい。</p>	<p>・個々の事業とKPIの直接の結びつきが直感的ではないが、個々の事業の進捗、KPIともに順調に進んでいる。(連番91「クラウドファンディングなどを活用した官民連携の推進」を除き) ・連番95「ボランティア・NPOマンパワーの養成による地域力の向上」に関連して、『第14回豊川市市民意識調査』では、20代30代の「まちづくり活動への参加」割合が前回調査よりも低下しており、40代以上と大きく異なる大差がある。将来の地域活動は民間企業なしには成り立たないのではないかと。</p>	<p>事業内容と活動指標がアンマッチ。他と同様「基本構想策定」など経過を記載した方がよいのではないかと。 クラウドファンディングが実績値ゼロとなっているが今後の見込みはどうか。非常に有効な取組だと思うので、広く活用してもらえよう周知できたらと思う。</p>	<p>民間活力という言葉が「錦の御旗」ようになってはいないだろうか。民間活力を導入しない場合、その事業はどうなっていたかを考えないと、民間活力の導入が果たして良い結果を生んだのかどうか分からない。民間活力の導入の検証をどのように行うかは今後の課題だと思う。</p>

基本目標		意見5	意見6	意見7
基本目標	施策			
≪基本目標③≫結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる地域社会づくり		結婚支援事業について 詳細はわからないが、出会いの場の提供に関する事業については、くれぐれも豊川市の方が他市へ流出するリスクのあるような事業を行なうまたはそれに補助することがないように願います。  例えば、男性は他市でも可とする嫁いだ時に豊川市から出ていくことになるので男性は他市在住や豊川市在勤を可としてはならない。 つまり女性はこの市でも可、男性は豊川市在住ということである。		
	(1) 安心して出産し、子どもが健やかに育つための支援	連番38「産婦健康診査事業」公費負担1人1回が目標値で実績も1は評価しづらいため、利用者（申請者）人数にできないか。		
	(2) 保育サービス・子育て支援サービスの充実と子育てにやさしいまちづくり			
	(3) 共生のまちづくりの推進	連番69「重層的支援体制整備事業」の目標値が会議実施回数では、評価しにくいいため、ソーシャルワーカーが対応した相談者数など実績をいれるのはどうか。		
≪基本目標④≫安全で快適に暮らせるまちづくり				
	(1) 拠点間の連携・拠点周辺への都市機能集約と居住の促進			
	(2) 地域の安全・安心・高付加価値化の推進	密集市街地整備事業について、実績値がない中で事業効果は〇になっている理由を明記した方がよい。  安全運転支援装置補助について、非常によい取組だと考える。目標数値が毎年100となっているが、対象がどのくらいと想定しており何年で普及するのか。計画的な取組とした方がよい。		
(3) 地域マネジメントと民間活力の導入				